

介護経営の実践者に学ぼう—— 登壇者からのメッセージ

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、来る11月16日(火)「介護福祉経営士 全国会議2021——ポストコロナ時代の高齢者ケアと介護福祉経営」を開催する。本特集では全国会議に登壇を予定している介護福祉経営士からの全国会議に向けたメッセージを紹介する。

ポストコロナ時代に対応するための 「経営的思考」とは

今回実施する「介護福祉経営士 全国会議2021——ポストコロナ時代の高齢者ケアと介護福祉経営」では、介護経営の最前線で活躍する経営者層に登壇者として招くことで、その経営マインドや思考プロセスを明らかにすることを大きな目標としている。それは、経営者がどのようなマインドセットでポストコロナ時代に向き合うのかが、今後の介護経営において重要なポイントになるためだ。

新型コロナの収束に向けたフェーズは大きく分けて3つに区別することができる。まず1つ目のフェーズが「ヴァーサス(VS)コロナ」である。緊急事態下であり、人々の安全が最優先され、重要な業種以外は営業の自粛、経済活動が大きく制限される状態だ。2つ目は「ウィズ(With)コロナ」。緊急事態下からはかろうじて脱し、再度の感染増加に向けて外出等が制限。さまざまな業種で営業は再開されるものの、対面での接触を最低限にとどめるなど、経済活動を継続するにあたって一定の工夫が求められる状態である。そして3つ目が「ポスト(Post)コロナ」。ワクチンや経口薬の投与が進み、感染拡大が収まり、経済水準を以前の水準に戻すために新たな生活様式に則った取り組みが求められる状態である。

上記の区分に当てはめた場合、2021年9月末に緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種率が全国民の約6割程度に達している現在の日本の状況(10月1日現在)は、かろうじてウィズコロナのフェーズにシフトしつつあるといえる。こうした状況においては継続的な感染への備えやコロナに

代わる感染症のリスク想定、収益改善やBCP対応などを盛り込んだ「事業計画の見直し」やヴァーサスコロナ期に変革を迫られた働き方について体系的に整理し、それを制度に取り入れるための「人事労務システムの最適化」——などが主な経営課題となり、現在では対応に取り組む企業も増えつつある。

また、さらにその先、「ポストコロナ」フェーズに向けての準備をいち早く始めている経営者も出はじめている。「ポストコロナ」フェーズではリスクを織り込んだ事業計画を実行しつつ新たな市場環境・価値観に対応する「攻め」の事業展開が求められるが、介護保険制度を基軸とする介護業界では既存の常識にとらわれない「発想力」が大きなカギとなることは想像に難くない。

そのために介護経営者には自組織の「実現したいこと(WANT)」、「できること(CAN)」、「やるべきこと(MUST)」、「できないこと(LIMIT)」をしっかりと整理し、明確なビジョンを描くことが求められる。

会議ではポストコロナを見据えて準備を重ねる経営者がどんなことを考え、発想し、どんなことを試し、失敗を成功につなげてきたのかをディスカッションを通じてひも解くことで、混迷の時代を生き抜くためのヒントを探る。

今まさに介護経営に携わり今後を模索している介護福祉経営士のみならず、変わりゆく介護業界の中で新たなビジネスチャンスをつかむために奮闘している他業界の介護福祉経営士にもぜひこの機会を活かしていただきたい。

次ページからは今回登壇する介護福祉経営士のプロフィールおよびメッセージを紹介していく。会議に参加するにあたりぜひ参考にしてほしい。

みな がわ たかし
皆川 敬

サニーウインググループ代表
介護福祉経営士1級
MBA、キャリアコンサルタント
プロフェッショナルコーチ



PROFILE

新潟県内にて老人ホーム、介護保険事業(デイ・訪問・その他)、保険外サービスを複合的に展開。M&Aを5度実行し事業拡大させた。本年6月には社会福祉法人理事長にも就任。制度サービスと制度外サービスを組み合わせ、利用者のあらゆるニーズに対応する「高齢者のお困りごと解決のワンストップサービス」をめざす。

■ サニーウインググループ
(株式会社メディカル・エージェンシー・ジャパン)



新潟県新潟市中央区関屋町1-6-2



www.maj.co.jp/index.html



地域ケアの要となる存在を目指して

地域性を重視したケアを提供することを目標に事業展開をしています。地域に住んでいる方が困ったら電話1本でその課題を解決できるような環境づくりをしたいと思っています。ただ、こうした取り組みについては同じようなサービスを展開しようとされる方も多いのですが、地域性もありなかなか難しい場合も多いのです。一律に同じことをするのはなく、差別化や個別化の視点を大切にしていることが重要だと思っています。

ただ、現場を見れば、業務内容は経営側の意図する方向でやってもらっている半面、どのようなストーリーや戦略を経営側が持っているかということスタッフに理解していただけているかは疑問が残ります。事業展開や組織の拡大について一緒に考えていける人材の確保が今後の課題の一つだと思っています。

また、これまでM&Aを経験してきて感じたのは、そういった場面では自分たちの考えを職員に押し付けるのではなく、きちんと表明して融合させながら経営をしていく必要があるということです。そうしたノウハウも地域ケアを支えていくために活かしていきたいと思っています。

Message

い ぐち けんいちろう
井口 健一郎

社会福祉法人小田原福祉会理事
介護福祉経営士2級



PROFILE

大学院卒業後、小学校教員を経て、2009年社会福祉法人小田原福祉会に入職。特別養護老人ホーム潤生園施設長。桜美林大学非常勤講師、神奈川県認知症ケア学会理事、かながわ福祉サービス振興会介護・生活支援ロボット活用研究会委員、FMおだわらパーソナリティなどを務める。介護教育の分野を中心に幅広く国内外で活動している。

介護福祉経営士の情報誌『SUN』にて『タイムトラベル——ケアの過去・現在・未来を探る旅』を連載中。

■ 社会福祉法人小田原福祉会



神奈川県小田原市穴部377



junseien.jp/



不確実な時代を生きぬく思考力を

今はとても不確実な時代です。今後生き残っていくためにはさまざまな戦略を練っていく必要があると感じています。デジタルトランスフォーメーションもそうですし、外国人材の活用、科学的介護などさまざまなことをやっていく必要があると思います。「これをやろう」と1球1球投げるといよりも、総合的にいろいろな戦略を立ててやっていくことが重要です。

介護保険に関わる人材がこれからどんどん世代交代していくなかで、どう生き残っていくのかを考えながら持続可能性を見出していかなければいけません。

一方で、介護保険はまだまだフレームの弱い制度だと感じていますので、ベンチャー性やクリエイティビティはまだまだあると思っています。

今回の会議では人が集まらない、経費がかかる、といった暗い話ばかりではなく、こうした時代のなかでいきいきと活躍している人は何を見ているのかということろを聞くことができれば面白いと考えています。

みぞぐち ひろゆき

溝口 寛之

Plus Fukushi 株式会社
代表取締役社長
株式会社ひまわりウェルフェアHD
代表取締役社長
介護福祉経営士2級



PROFILE

日本福祉大学を経て介護会社へ総合職として入職。さまざまな介護現場を経験した上で介護経営に携わる。現在は「福祉のインフラ」の発案者として、介護・医療・障がい事業の経営からコンサル・スタートアップ支援に取り組む。新しい価値の創造に向けて、他業界への『福祉の要素を取り入れたイノベーション実現』に向けて活動している。

■ Plus Fukushi 株式会社



愛知県名古屋市中村区名駅2-45-14
東進名駅ビル4F



plusfukushi.co.jp/



“福祉のインフラ”を実現したい

私たちは、「福祉のインフラ」を実現し、日本から世界を元氣にする」をビジョンとする企業です。介護・医療・障がいだけでなく、全ての業界に福祉の要素が必要と考えています。コロナ禍で迫られるビジネス変革により、「福祉」の分野に新規事業創出に取り組む企業が目立ってきています。私たちは日本福祉大学健康科学研究所とは研究協力に関する覚書を交わしており、様々なジャンルの企業と大学との連携による介護施設の開発・運営のほか、大手電機メーカーとの歩行リハビリロボットの開発協力、コンサルティングやブランディング、子ども事業などを行っています。こうした経験や蓄えられたノウハウが、新規事業の創出支援、スタートアップ企業の支援に役立つと考えており、実際に介護業界以外からの福祉の要素をプラスした新商品・新サービスのご依頼が増えています。

会議では、クリエイティブな発想で創り出し成長していくこと、また、福祉のイメージの変革について学び合っていきたいと思います。

Message

うえ はら りょう

上原 亮

株式会社いちまん会代表取締役
介護福祉経営士1級
理学療法士



PROFILE

病院勤務を経て、2012年7月に介護サービス事業所を開業。現在は、デイサービス4事業所、住宅型有料老人ホーム、居宅介護支援事業所を経営。リハビリに特化したデイサービスとして、各事業所にリハビリ専門職を配置し、利用者のニーズに沿ったリハビリを提供している。地域に貢献できる会社をめざし活動している。

■ 株式会社いちまん会



沖縄県糸満市字真栄里1415-1



www.ichimankai8643.com/



今なにかができるのを考え続ける

これまでいちまん会はリハビリやさまざまな行事を開催することをアピールポイントにしてきました。

しかし、コロナの影響によってこの1年半の間、行事や買い物会等が中止になりました。

また、沖縄では緊急事態が長時間続いたこともあり、外出の機会が減ることによる筋力低下や認知機能の低下が問題になっていました。そのため、移動販売という形で今年の2月から事業を開始し、地域の方々や利用者さんから大反響をいただきました。職員一丸となってやっていくことで、他事業所の法人さんなどからもお声掛けいただくことも増え、その点は職員のモチベーション強化につながったと思います。

このほかにも保険外サービスとして、配食サービスや買い物代行サービスを開始し、来年からは地域包括支援センター、総合事業型のフィットネス事業を展開する予定です。

会議では介護福祉経営士の方々やご参加の皆様と情報交換し、ピンチをチャンスに変えられる機会にしていきたいと思います。